

2025年11月のてがたんは当日受付にて実施しました。ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。観察記録のレポートを作成いたしましたので、ご覧ください。

次回のてがたんは12月13日（土）で、テーマは「検証！鳥のことわざ」です。ぜひご参加ください。市民スタッフの皆さん、次回の下見は12月7日（日）です。

11月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→手賀沼遊歩道→水生植物園→けやき広場で解散
- 観察日時／天気：2025年11月8日（土）10:00～12:00／晴れ
- 参加人数 16名（大人13名、子ども3名）
- 市民スタッフ：7名（石原直子、伊東茂子、北村章子、**小泉伸夫**、伴野茂樹、弘實さと子、古澤紀元）
- 鳥博職員：1名（脇水徳之）

観察した生き物の記録

下見で見られたものも含む。

【鳥類】キジ科：キジ（声）／カモ科：マガモ、カルガモ、コガモ／カツブリ科：カツブリ、カンムリカツブリ／ハト科：キジバト／ウ科：カワウ／サギ科：アオサギ、ダイサギ、コサギ／クイナ科：バン、オオバン／カモメ科：ユリカモメ、セグロカモメ／タカ科：トビ／カワセミ科：カワセミ／キツツキ科：アカゲラ／モズ科：モズ／カラス科：ハシブトガラス、ハシボソガラス／シジュウカラ科：シジュウカラ／ヒヨドリ科：ヒヨドリ／ウグイス科：ウグイス（声）／エナガ科：エナガ／メジロ科：メジロ（声）／ムクドリ科：ムクドリ／ヒタキ科：ジョウビタキ／スズメ科：スズメ／セキレイ科：ハクセキレイ、セグロセキレイ／アトリ科：カワラヒワ／ホオジロ科：ホオジロ
家禽や外来種：コブハクチョウ（カモ科）、ドバト（ハト科）

【その他】アメリカザリガニ、コクサグモ、ジョロウグモ

【昆虫】トンボ目：アキアカネ／バッタ目：オンブバッタ、ウスイロササキリ、カネタタキ、シバスズ、マダラスズ、オカメコオロギ、ツヅレサセコオロギ／カムシ目：チュウゴクアミガサハゴロモ、ヨコヅナサシガメ／コウチュウ目：ナミテントウ、ヨツモンカメノコハムシ／チョウ目：キタテハ、ヒメアカタテハ、モンシロチョウ、キタキチョウ、ムラサキシジミ、ヤマトシジミ／ハチ目：オオスズメバチ

【草の花】イラクサ科：カラムシ／ナデシコ科：ナガエツルノゲイトウ／タデ科：アキノウナギツカミ、イヌタデ、ボントクタデ、ミゾソバ、イシミカワ、サデクサ／ウリ科：アレチウリ／アブラナ科：イヌガラシ、ナズナ／ムラサキ科：ハナイバナ／シソ科：ホトケノザ／キク科：オニタビラコ、セイヨウタンポポ、セイタカアワダチソウ、コセンダングサ、ノコンギク、ハキダメギク、ヨモギ／アサ科：カナムグラ／ツユクサ科：ツユクサ／イネ科：チカラシバ、メリケンカルガヤ／ヒガンバナ科：タマスダレ

【木の花】アオイ科：ムクゲ／モクセイ科：キンモクセイ

2025年11月の観察アルバム



今回のテーマは「世界と繋がっている我孫子の鳥」でした。てがたんコースで見られる鳥が、どこから来て、どこへ行くのか、世界スケールの移動に注目しました。

てがたん当日は天気が良く、水面ではボートが出ていた関係で水鳥類が少なかった一方で、シジュウカラやエナガなどの小鳥類は多く観察することができました。また、県の要保護生物のアカゲラも観察できました。



今月の案内人
小泉 伸夫



①ポプラの木で見かけたシジュウカラ。複数個体で混群を作つて移動していた。



②手賀沼遊歩道で見られたシロダモの果実。ヒヨドリやツグミがよく食べに来る。



③水際の杭の上で休んでいたカワウ。冬が繁殖期で、後頭部の白い羽毛が特徴的。



④沼の岸辺で休んでいたカルガモ。日本では留鳥で、手賀沼で一年中見られる。



⑦複数個体で遊歩道の枝を移動していたエナガ。千葉の個体は眉が少し薄い。



⑤水草をかき分けて泳いでいたコガモ。オスは目の後ろの緑色の羽毛が特徴。



⑥地面に止まっていたアキアカネ。



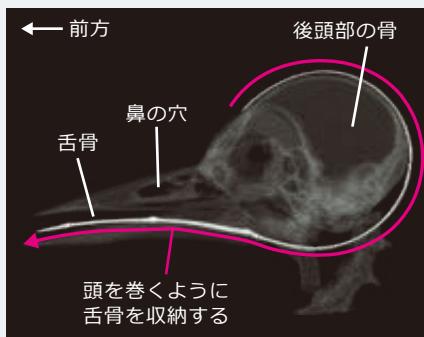
⑧ヨコヅナサシガメの幼虫。集団でジヨウグモの体液を吸っていた。

今月の鳥 アカゲラ

アカゲラはキツツキの仲間で、北海道と本州・四国で繁殖し、低地や山地の林に住む留鳥です。秋になると平地の林に下りて越冬します。

キツツキの仲間は、くちばしで樹の幹を叩いて穴をあけ、長い舌で樹の中にいる幼虫を捕らえて食べます。

多くの鳥では、舌を支える骨（舌骨）は首の付け根付近に基部がありますが、キツツキは舌が長いため、後頭部を回って鼻の周囲に基部があります。



CT撮影で可視化したアカゲラの舌骨と頭骨



⑨沼沿いの樹を叩いていたアカゲラのオス